

その47 猫の線維上皮性過形成

堀 英也 辻堂犬猫病院

猫の乳腺にシコリができたなら、ほとんどが悪性（85%）という事は皆さん知っています。発生年齢も幅広く、なんと9カ月から23歳ですので若齢でも気は抜けません。そのため、若くても猫の乳腺に膨らみを感じればギョッとしてしまいます。

乳腺が著しく、そして急速に増大する原因に線維上皮性過形成があります。名前の通り腫瘍ではありません。名前を覚える必要はありませんが、乳癌と紛らわしい病態ですので、知っているのと知らないのとでは心の持ちようが違います。なにしろギョッとするような見た目ですから（図1）。



図1. 腫大した乳腺

○ 症例：猫（1歳2カ月齢、未避妊雌）

症例は未避妊雌。1カ月前に発情があり、最近落ち着いた。その時から急速な乳腺の拡大に気が付いたとのこと。

乳腺の腫大は尾側乳腺が最も大きく、その他の乳頭周囲の腫脹が軽度に見られます。腫瘤の熱感はなく、比較的柔らかく弾力性です。局所エコー所見は均一な混合エコー所見で（図2）、細胞診検査では非上皮系細胞が主体で、上皮系細胞はパラパラと観察できる程度でほとんど認められません（図3、4）。避妊手術を行いました。皮下織は著しい水腫を起こしています（図5、6）。

線維上皮性過形成の組織学像は、水腫性の線維性間質組織の増殖の中に乳腺上皮の過形成を認める所見のようで、細胞診所見と術中所見に合致します。

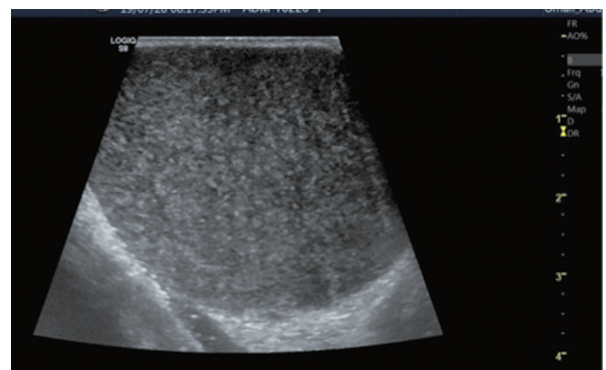


図2. 均一な混合エコー

※NJKは、みなさんで作る雑誌です。症例紹介、ご質問、ご意見をお寄せください。